

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	みやぎ県 宮崎県	市町村名	みやぎ県 三股町	地区名	みやぎ県 三股駅前周辺地区	面積	50 ha
計画期間	平成 20 年度 ~ 平成 23 年度	交付期間	平成 20 年度 ~ 平成 23 年度				

目標							
大目標：魅力や賑わいにあふれる中心市街地の再構築を図り、「豊かで住みよい活力ある町づくり」を目指す。							
目標1	生活拠点としての中心市街地の賑わいを再生し、町民との協働による活力あるまちづくりを目指す。						
目標2	交通結節点としての整備を進めることにより、交通機関のアクセスを充実させ、商工業の振興を図る。						

目標設定の根拠							
まちづくりの経緯及び現況							
<p>本町は、西側に隣接する都市部のベッドタウン化が進み、平成5年度に都市部とともに「都城地方拠点都市地域」の指定を受けた。その結果、居住拠点地区としての整備がすすみ、昨今鈍化してはいるが定住人口は増加傾向を維持している。しかしながら、モータリゼーションの進行により、都市部に近い西側地域においては、若年層人口の増加や、商業施設の建設又は移転が増える一方、かつて本町の中心市街地であった三股駅周辺地区から東側の地域については、既存商店街の空洞化や住民の高齢化がすすみ、人口の偏在化が進んでいる。</p> <p>特に、本町の玄関口であり顔でもある三股駅周辺地区においては、交通結節点や街路等の基盤水準が低く、駅舎自体の老朽化も拍車をかけ、閑散としたイメージが年々強くなっている。</p> <p>・三股町中心市街地活性化基本構想において、当地区は、地域密着型商業を集積し、商業圏さらには生活圏としての快適性及び利便性を兼ね備えた、本町における商業の中心としての再開発地域に選定されている。</p> <p>・本町は、平成16年度に「どぶろく特区」としての指定を受けたことにより、さらなる本町の特産品の開発等をめざし、住民のまちづくりに対する機運が高まっている。そのような中、町外への情報発信の場、地域住民の相互交流による地域活性化の拠点、さらに、農・商・工業の拠点となるべき産業会館の建設が長年にわたり望まれてきた。</p> <p>・大正2年に建設された三股駅舎については、過去に増改築を幾度か行なっているが老朽化が著しく、さらに、三股駅周辺では空き店舗や空地が増加するなど、かつての中心市街地としての面影はかすみ、街並みは閑散としている。そのような現況を憂う住民の声が途絶えることはなく、長年にわたり駅周辺地区の再開発についての検討・協議が重ねられてきた。</p> <p>・町内巡回バスであるコミュニティバスを、平成19年度から運行しているが、町内の交通弱者を対象とした生活支援だけでなく、各種観光イベント等の開催時においては、町民のみならず町外者もコミュニティバスを利用しており、本町への観光客数が増加現象にある。</p>							
課題							
<p>高度情報化社会による商業圏拡大に対する経済活力の醸成、超高齢化社会の到来へ向けた町民生活の安定化、さらに次世代を担う若年層の定住化促進を図るため、魅力ある中心市街地の活性化が都市整備上の最大かつ喫緊の課題である。</p> <p>・活発化しているまちづくりに対する町民の機運を集約し、新たな取組みに関する研究開発を行い、町内外へ情報発信するための拠点となる施設がない。高まるまちづくりへの意識を損なうことなく、町民の自主性や積極性をさらに高める施設の整備を、早急に行う必要がある。</p> <p>・昨今のモータリゼーションの進行により、交通の利便性が高まり、そのことよって、町外への購買者の流出がすすんでいる。町内を巡回するコミュニティバスの運行により、町内における交通弱者のみならず、町外からの集客を誘導するため、各種交通機関との結節点の整備を行い、脆弱な交通環境の強化を図る必要がある。</p> <p>・行政・金融・文化教育・商業・交通・医療等の各種機関が当地区に集約されている。利便性を高め、地域生活の中核となる中心市街地の再構築を行う必要がある。</p>							
将来ビジョン(中長期)							
<p>利便性や快適性を追求し、常に賑わいと活気に溢れ、経済活力及び商工業振興の源となり得る、町内外へ向けた情報発信の拠点としての機能をあわせもつ中心市街地として位置付ける。</p>							

目標を定量化する指標							
指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値		目標値	
					基準年度		目標年度
産業会館商品開発室の活用状況	回/年	産業会館における各種まちづくり団体等の商品開発室活用状況	魅力ある中心市街地を目指すうえで、産業会館は中核施設としての位置付けがなされている。積極的な住民参加によるまちづくりを進めていくうえで、多目的な活用が可能となる当該商品開発室が有効活用されることにより、情報発信拠点施設としての機能を最大限に引き出す。	160	平成18年度	180	平成23年度
公共交通機関利用者数	人/年	JR及びコミュニティバス等の公共交通機関乗降者数	三股町の玄関口である三股駅を交通結節点として改装し、産業会館をはじめ、中心市街地への人々の誘導を目指す。各施設の整備を充実させることで、JR等の公共交通機関の利用者を増やし、当該地区の賑わいを創出する。	163,520	平成18年度	178,000	平成23年度

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>整備方針1(地域住民相互の活気ある交流の場の形成)</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成18年度における三股駅の利用者は、1日平均約220名の乗降者があった。これらの乗降者が、ほんの少しでも足を留め人々が集うような魅力的な空間を創出するために、特色ある地場産品を展示販売できる機能を持たせた産業会館を建設する。 魅力ある物産館とするために、既存の特産品の販売に固執しすぎず、新しい分野も視野に入れた商品の開発や研究に取組むとともに、多くの人々の参加意欲を掻き立てる各種イベントの企画立案を積極的に検討していく必要がある。そのために、まちづくりへの意欲のみで構成される団体等が、自由な発想のもと、多目的に活用できるコミュニティ室を整備する。 産業会館内に商工会館を併設することにより、町内の商工業者・農林水産業者が販路開拓する際の支援体制を強化させ、あわせて物産館における展示販売の充実を図る。 各々で産出されている商工加工品及び農林水産物を集約し、一般市場における競争力及び経済活力をつけるために、一体的に町内外へ情報発信できる拠点施設を整備する。 多くの人々が、気軽に足を運ぶ魅力的な産業会館にするために、多目的広場を整備し、各種イベントを多数開催することにより、産業会館及び周辺地域の周知度を高め、賑わいの創出を図る。 	<p>産業会館(高次都市施設／基幹事業) 多目的広場(地域生活基盤施設(広場)／基幹事業) 駐車場整備(地域生活基盤施設(駐車場)／基幹事業) 情報案内板整備(地域生活基盤施設(情報板)／基幹事業) コミュニティバス施設整備(地域創造支援事業／提案事業) 事業効果分析調査(事業活用調査／提案事業) 三股駅改修事業(関連事業／町) 産業会館整備事業(関連事業／商工会) 中心市街地空き店舗対策事業(関連事業／商工会)</p>
<p>整備方針2(交通結節点の整備により、町内還流の促進)</p> <ul style="list-style-type: none"> 当該計画区域である三股駅周辺地区については、空き店舗や空地が目立ち閑散としたイメージが強い。当該地区へ多くの人を呼び込むため、利便性の高い駐車場整備を行い、魅力ある生活圏の再構築と中心市街地振興の呼び水を熾す。 玄関口としてのシンボルであり歴史的にも価値のある三股駅ではあるが、大正2年に建設され、駅舎自体老朽化がすすみ、周辺に閑散としたイメージを与えている。そのため、多くの人々が憩うことのできる場として、快適な交流サロンの機能をもたせる。 町内全域をほぼ網羅する利便性の高いコミュニティバスの運行により、交通弱者だけでなく町外からの観光客のニーズに応えるため、交通結節点の整備を行うことで、購買及び観光の拡散を図る。 	<p>駐車場整備(地域生活基盤施設(駐車場)／基幹事業) 情報案内板整備(地域生活基盤施設(情報板)／基幹事業) コミュニティバス施設整備(地域創造支援事業／提案事業) 事業効果分析調査(事業活用調査／提案事業) 三股駅改修事業(関連事業／町) コミュニティバス運行事業(関連事業／町)</p>
<p>その他</p>	
<p>○事業終了後の継続的なまちづくり活動</p> <p>本町の商工会は、加入者数の割合である組織の伸び率が、県内1位の実績を誇っている。また、平成18年度には、商工会全国大会及び青年部全国大会において、青年部が優良青年部として中小企業庁長官表彰を受賞している。さらに、平成17年9月に「どぶろく特区」として九州で唯一製造免許の通知を受けて以後、このどぶろくを活用した新特産品開発やその波及効果による町の活性化へ向けた積極的な取組みを行っている。</p> <p>具体的には、「どぶろく特区を活かした三股町全国PR大作戦」を展開中である。この商工会の躍動的な活動をさらに高めるためにも、行政と商工会、さらには、まちづくりに関する住民団体等との協働による取組みを継続し、ネットワークの軽い組織づくりへの支援を行う。</p>	

みまたえきまえしゅうへん みやざき みまたちよう
三股駅前周辺地区(宮崎県三股町) 整備方針概要図

目標	魅力や賑わいにあふれる中心市街地の再構築を図り、「豊かで住みよい活力ある町づくり」を目指す。	代表的な指標	産業会館商品開発室の活用状況 (回/年)	160 (平成18年度) →	180 (平成23年度)
			公共交通機関利用者数 (人/年)	163,520 (平成18年度) →	178,000 (平成23年度)

